

厳冬期 北岳池山吊尾根 山行記録

■日時：2020年2月7日（金）夜発～2月10日（月）帰阪

■メンバー：中嶋宏幸（リーダー）、小林玉喜、西川高士（記録）

■山域：北岳

■カテゴリ：積雪期ピークハント

■山行目的：厳冬期北岳への登頂

■山行概要：

- ・2月7日（金） 新大阪日産レンタカー（22:00）集合～スタッドレスレンタカーJUKEで奈良田に向かう
- ・2月8日（土） 奈良田（5:00）発～アルキ沢橋（8:30）～池山御池小屋（12:30）～城峰手前 2350m 付近（14:30）
テント泊
- ・2月9日（日） テント（8:00）発～八本歯の科尔（11:00）～北岳山頂（13:00）～テント（16:00）
テント泊
- ・2月10日（月） テント（7:00）発～アルキ沢橋（9:00）～奈良田（12:00）～帰阪

■詳細：

2月8日(土)奈良田～池山御池小屋の少し上のBC

新大阪に集合して、早速レンタカーに乗り込み出発。いつも通る北陸道、東海北陸道、中央道とは違う、新名神 - 伊勢湾岸道 - 新東名で道もSAも新しく快適に運転をして、5時間後に高速を降りて一般道に。高速を降りてからのコンビニは降りてすぐのローソンのみでここを逃すともうコンビニはなかった。

奈良田の開運隧道の手前の空きスペースに駐車して支度を済ませて出発。開運隧道の入り口には大きな柵があり、事前情報では、ザックを置いて柵を乗り越えて反対側からだとして簡単に扉が開くという事前情報があったので、身軽な小林さんがサッと乗り越えて、内側から開けてくれた。この事前情報がないとけっこう戸惑っていたと思う。



開運隧道のゲート

そこから、じんわりとした登りの車道を歩き始める。1時間ほど歩くと空も明るくなってきたが、1000mほどあるトンネルを含めいくつものトンネルを通過するたびにヘッドランプに明かりを灯しながら進んだ。

歩き始めて3時間半ほどで登山口のアルキ沢橋に着いて、全員の口から「やっと着いた」とほっとする吐息が漏れていた。はじめは雪より地面が見えているような状態の急坂の登り。西川、中嶋さん、小林さんと続く。

アコンカグアを下山して、ワインとサラミを食べすぎて、ちょっとブランクの空いた小林さんがやや遅れがちになると、中嶋さんから「アコンカグア帰り、どうした！」という励ましの声をかけながら、急坂を登っていく。



アルキ沢橋登山口

急登を登りきると平地となり、けっこうなラッセル状態を進み、池山御池小屋で大休止。この時点で正午を少し回った時間。小屋の中をのぞくとまあまあキレイで快適そうだった。このまま小屋泊で明日、ここからピストンでもいいかなあ、という誘惑がみんなの頭をよぎるが、まだ時間も早いし、せめて14時くらいまでは頑張ろうと気持ちを前向きにして、ワカンを装着して出発。その後、城峰手前の平たい場所にかっこのテント適地を見つけて、14時半にその日の行動を終了。

サラサラの雪でなかなかうまく整地できないが、それらしく平になったところにテントを張ろうと本体にポールを取り付けているときに「パキッ」と何かが折れた音がした。見るとポールが1箇所折れてしまっていた。後日、ロッジで修理に出したところ、メーカーの見解としては、ポールが奥まで入らない状態でテンションをかけることで、

折れてしまった可能性が高いということだった。その場で応急処置として、適当な木の枝を副木にしてガムテープで張りつけて何とか使用した。

1日目の夜の食担は小林さん、2日目は私だ。小林さんにメニューを訊くと、煮込みラーメンで私と被ってしまった！けど、味を訊くと小林さんは「鶏塩ちゃんこ」で私は「とんこつマー油」でかろうじて味

は変化をもたせられた。酒は中嶋さん焼酎、私ウイスキー、小林さんワインで変化を楽しめた。しかも小林さんのワインのアテはアルゼンチン土産のカビに包まれたサラミ。アルゼンチンでふんだんに食べてきてお気に入りのようだ。周りにはテントがなく、気兼ねなく夜遅くまで談笑し快適な寝床に着いた。



折れたテントポール

2月9日(日) 北岳 山頂アタック

この日の朝食は小林さんの定番の「カムジャ麺」韓国のインスタントラーメンで、ジャガイモを原料に使っていて、もちもちとした直感でのど越しも良く、朝から食べやすい。朝食を食べながらリーダー中嶋さんは天気予報を確認するが、午前中いっぱい20m/sを超える風速で、午後からは若干収まる予報。しかもその翌日はまた、風速が強まる予報だ。4時半に起床したが、夕方にテントに戻ってこれるギリギリの時間の8時出発にして、2時間ほど休息することにした。

そして8時になってテントの外を見ると空は快晴。時折風の音は聞こえるが、先ほどよりは収まっている感じがする。2時間更に寝てスッキリしたみんなのテンションは上がり、アイゼンを装着して出発した。1時間ほど歩くと、森林限界を超え、稜線に出た。ちょうど砂払前後では風が強く、このまま山頂に行けるのだろうかみんな不安になるが、振り返ると富士山が快晴の中でかなりの大きさで見えて、またまたテンションは上がる。その後徐々に風は収まってきて、今回最も危険度が高い八本歯の



砂払付近からの富士山

への下りの箇所ではそよ風程度になっていて、難なく通過することができた。前回の白山で経験した、山頂付近での凍結状態が今回の北岳でも可能性を考えていたが、少し前に雪が降ったらしくかなり歩きやすい状態で助かった。朝出発して5時間後の13時頃に北岳山頂に立てた。山頂ではほぼ無風状態で快適に休憩をして下山することに。山頂手前で4人のパーティとすれ違ったが、このパーティは池山御池小屋を朝3時に出発してきて、砂払に6時頃を通過したのだが、その時の強風がひどい状態でなかなか前に進めずに難儀をしていたようだ。前日に小屋泊をせずにあと2時間がんばって良かったと思えた瞬間だったが、その後、砂払の少し下の樹林帯に入ってすぐのところから、所々にけっこうな数のテントが張られているのを見て、「けっこう早めにめげてしまっていたなあ」と軽く反省。

下山は2時間半ほどでテントに戻ってきて、小林さんのやさしさがあふれるビールを分けてもらい、乾杯しようとすると、テントにおいていたビールが凍っていてなかなか出でこない。仕方がないのでお湯で溶かすと、溶けた分だけ泡になって溢れてくるのでそれを少しずつ入れて、クリーミーで濃厚になった泡ビールで乾杯！明日は下山だけと思うと昨日よりも飲みすぎたらしく、気が付けば22時を回っていた。



北岳山頂に続く池山吊尾根の稜線



間ノ岳、農鳥岳方面



北岳山頂

2月10日(月) 下山

テントを撤収して、途中からの急坂を考え、最初からアイゼンを履いて、朝7時に下山開始。登りの時以上に下りの時はより急坂感を感じ、こんな斜面を登ってきたんだから、そりゃしんどいわと思えた。テントから2時間後にはアルキ沢橋に到着。そこから、また3時間弱の車道歩きがはじまった。行きと違ったのは道路の凍結箇所が増えていることだった。ちなみに私は2回もツルツと滑ってしりもちをついたのと、股が裂けそうになった。毎回思うことだが、やはり下山が核心部だった。登りでは3時間半ほどかかった車道歩きも緩やかな下りと言うこともあり、2時間半ほどで、開運隧道のトンネルまで戻ってくることができた。

冬山で冷えた身体を温めるのはやはり温泉♨️。近くには奈良田温泉がある。5年ほど前に中嶋さんと小林さんが来たことがあるという、奈良田の里温泉に行くことに。中嶋さんはほとんど記憶はなかったようだが、小林さんは何となく覚えていて、すごくいい湯だったという記憶があるらしく、みんなで楽しみにして向かった。駐車場から少し、坂道を登っていきながら、小林さんの記憶も確かなものになってきて、「そうそう、こういう坂を登った」とか「中に入ってすぐのところに食堂があった」とかを話していた。建物を見て民家風で風情があって、期待度が高まった。受付でお金を払って中に進もうとすると、受付のおじさんから「お湯が少しぬるめだから、ゆっくり入ってね」と声をかけられる。みんなでゆっくり入ってこようと言いつつ、中に入ってみると、露天風呂はなく、内風呂に小さめの浴槽とちょっと大きめの浴槽があって、男性風呂に3人の先客が全員小さめの浴槽に浸かっていた。見た感じは同じように見えたので、一人だけゆったりできる広めの浴槽に浸かることに。そうすると受付のおじさんが言っていた「ぬるめですよ」を通り越して、思わず「ぬるっ！」と声が出るくらい。となりの小さ目の浴槽にはいってみると少し暖かいが、いくら入っていても身体が暖まらずに諦めて出ることに。脱衣所では暖房も効いておらず、出た瞬間に「さむっ！」と声が出て、雪山から降りてきて、身体を温めたかった想いは叶えられず、残念に思いながら入浴を終えた。ただ、その後に食べたほうとうを一口入れて、からだまで暖まることができた。後程小林さんに訊くと、前回来たときは真夏の暑いときで、お湯のぬるい温度までは覚えていなかったことが分かった。この温泉に来るときは夏で、皆さんも、冬に「源泉かけ流しの温泉」にはご注意を！

教訓

- ①テントポールを設置する際には、ポールの連結はしっかり奥まで入れること。
 - ※特にゴムが伸びてゆるくなっていると、ゴムの力だけでは奥までいかないこともある。
 - ※冬季でポールが凍結していると奥まで入る前に固まってしまうこともある。
- ②天気予報の強風時には風速と風向きを考え、出発のタイミングを考えること。
 - ※風が強まる時間帯にどの辺りにいるのか（稜線上のコルは風が集まってきやすく特に強風になりやすい）。
- ③冬場の源泉かけ流し温泉は湯温に注意すること。
 - ※口コミ情報で「ぬるめで長く浸っていると、不思議に芯まであたたまる」などのコメントの温泉は、冬の下山後に不向きである。